

令和2年度第9回地方独立行政法人京都市立病院機構理事会 議事録（要旨）

- 日 時： 令和3年3月23日（火） 午前10時30分から12時00分まで
- 場 所： 市立病院北館7階ホール1
- 出席者： 理事長 黒田 啓史
理 事 森 一樹, 清水 恒広, 半場 江利子, 松本 重雄, 位高 光司,
能見 伸八郎, 山本 みどり, 白須 正
監 事 長谷川 佐喜男, 中島 俊則
事務局 折戸経営企画局次長, 長谷川担当部長, 大島京北病院統括事務長,
濱口経営企画課長

1 開会

2 議事・報告等

(1) 令和3年度 年度計画（案）及び予算（案）について

資料1に基づき、折戸経営企画局次長から説明
議案のとおり承認された。

- 全体の印象として、昨年度と比較し、きめ細かく策定されたものと思う。数値の設定に関して、昨年度より低く設定されているものがあるが、これは新型コロナの影響により、控えめに想定した結果によるものか。
→ 目標によって設定の考え方は変わるが、新型コロナによる影響が来年度も続くことを想定している。第3期中期計画は高い目標を掲げており、年度計画をこれに沿ったものとした場合、達成が難しい項目も出てくるため、現実に即した設定とした。
- 新型コロナの影響から現実的な目標を設定したのだと思うが、例えばがんの手術件数は増えている。コロナ禍でも影響を受けず、達成は可能ということか。
→ がん医療は当院の大きな柱で、関連する目標としては手術件数や化学療法件数等があるが、実績は増加傾向にある。コロナ禍でも必要な治療は行っており、大きな影響はないと考えている。
- 京北病院において在宅医療機能を強化するとあるが、紹介を待つのではなく、患者獲得のため、積極的に出向いていく方向にシフトすると考えて良いか。
→ そう考えている。地域医療で見た場合、今後は美山地区へも力を入れていくことが必要であり、ニーズもあると思うので取り組んでいく。
- 認知症対応に取り組むとされているが、今後、高齢者のうち、5人に1人が認知症になるとの想定がある中、どのような認識を持たれているか。
→ 当院においても認知症対策は避けて通れない問題と認識しており、認定看護師の育成に力を入れている。急性期の患者だけでなく、今回の新型コロナ対応においても認知症を抱える患者への対応に苦慮しており、看護力が求められることから、今後、しっかりと取り組んでいく。
- 目標設定の手法として、過去に「ストレッチ目標」という達成できない目標を追いかけた結果、ダメになった企業があった。個人的には、現実的に達成可能な目標設定の方が良いと思う。ただし、その場合は必ず目標をクリアし、次にもう一段高い目標を設定するようにすべきである。
→ 中期計画における制約はあるものの、がんばれば達成できるという適切な目標設定としたつもりである。

- 来年度計画は全体的にバランスが取れた良いものだと思うが、職員一人一人の経営参画の意識を上げていくためには、現場でのディスカッションによる目標設定も大切な視点である。現場の発意を大事にしてほしい。
- 上が決めて働かされているという意識では良くならない。一朝一夕では難しいが、ディスカッションができる風土づくりと、一人一人が病院を支えているんだという意識付けに取り組んでいく。職員の満足度が上がることで、患者の満足度向上にもつながる。

(2) 短期借入金年度末借換えの申請について

資料2に基づき、折戸経営企画局次長から説明

(3) 月次収支報告（1月分）

資料3に基づき、折戸経営企画局次長から説明

- 入院の利用率が低い状況にあるが、コロナ禍にあっても、患者の受入れに支障はないのか。
- コロナ疑い患者には個室対応を行っており、年末年始は苦しい状況にあったが、検査体制の整備などでスムーズに流れるようになった。空床全てを埋められるわけではないが、現在はうまくベッドコントロールができています。
- コロナの影響からの回復に向け、どこの病院も動き出している。救急にしる、紹介にしる、第一報を受けた時点でスムーズに受け入れられるように、予め院内のベッドコントロールを行っておく必要がある。

(4) 収入状況月次報告（2月分）

資料4に基づき、折戸経営企画局次長から説明

- 市立病院における感染管理に関する認定者の状況はどうなっているか。
- 現在、感染管理認定看護師が2名、医師としては、感染管理も担える専門医が3名いる。また、薬剤師、検査技師においても同様の認定制度があり、3、4名の認定薬剤師とより上位の専門薬剤師1名が在籍している。今後もこうした認定取得の取組を続けていきたい。

3 閉会